

PS60

PERFORMANCE SYNTHESIZER



イージー・スタート・ガイド

日本語

EDS-i Enhanced Definition
Synthesis - integrated

REMS

KORG

このたびはコルグ パフォーマンス・シンセサイザーPS60
をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱説明
書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。

安全上のご注意




ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いた
だき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのもの
です。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または
切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けていま
す。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重
要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。 左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	○記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の 図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の 図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性があります。



- ・ AC アダプターのプラグは、必ず AC100V の電源
コンセントに差し込む。
- ・ AC アダプターのプラグにほこりが付着してい
る場合は、ほこりを拭き取る。
感電やショート恐れがあります。
- ・ 本製品をコンセントの近くに設置し、AC アダ
プターのプラグへ容易に手が届くようにする。



- ・ 次のような場合には、直ちに電源を切って AC ア
ダプターのプラグをコンセントから抜く。
 - ACアダプターが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要なときは、コルグ・サービス・センター
へ依頼してください。



- ・ 本製品を分解したり改造したりしない。



- ・ 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれてい
ること以外は絶対にしない。
- ・ AC アダプターのコードを無理に曲げたり、発熱す
る機器に近づけない。また、AC アダプターのコー
ドの上に重いものをのせない。
コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- ・ 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性が
あります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専
門の医師に相談してください。
- ・ 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を
入れない。
- ・ 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖
房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保
管はしない。
- ・ 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ・ ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- ・ 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- ・ 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴の
かかる場所で使用や保管はしない。
- ・ 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを
置かない。
- ・ 本製品に液体をこぼさない。



- ・ 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う
可能性または物理的損害が発生する可能性があります。



- ・ 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ・ ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使
用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品
が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、
ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- ・ 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽
く拭く。
- ・ AC アダプターをコンセントから抜き差しする
ときは、必ずプラグを持つ。



- ・ 長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセ
ントから抜く。
電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源
から切断されていません。



- ・ 付属の AC アダプターは、他の電気機器で使用し
ない。
付属の AC アダプターは本製品専用です。他の機
器では使用できません。
- ・ 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線を
しない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続
してください。

- ・ スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- ・ 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、
コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用し
ない。
- ・ 不安定な場所に置かない。
本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品
が破損する恐れがあります。
- ・ 本製品の上ののったり、重いものをのせたりしない。
本製品が落下または損傷してお客様がけがをし
たり、本製品が破損する恐れがあります。
- ・ 本製品の隙間に指などを入れない。
お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れが
あります。
- ・ 地震時は本製品に近づかない。
- ・ 本製品に前後方向から無理な力を加えない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品
が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容
が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ
付属のエディターを使用して、コンピューターやメディアへ保
存しておいてください。データの消失による損害については、
当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱説明書について

取扱説明書の構成

PS60には次の取扱説明書が付属されています。

印刷物：

- ・ PS60イージー・スタート・ガイド(本書)

アクセサリ・ディスク(CD-ROM)収録 PDF：

- ・ PS60取扱説明書
- ・ PS60ボイス・ネーム・リスト
- ・ PS60パラメーター・ガイド
- ・ PS60 USB-MIDIセットアップ・ガイド
- ・ M50 Editor/Plug-In Editor取扱説明書

上記PDFは、付属CD-ROMの「MANUALS」フォルダに収録
されています。KORG USB-MIDIドライバなどの取扱説明書
はドライバと同じフォルダに収録されています。

取扱説明書の表記

取扱説明書の省略名 OM, PG

参照ページを示す場合などでは、各取扱説明書の名称を次のよ
うに省略して表記します。

OM: PS60取扱説明書 (Owner's Manual)

PG: PS60パラメーター・ガイド (Parameter Guide)

マーク , Note, Tip

これらのマークは、順番に、使用上の注意、MIDIに関する説明、
ノート、アドバイスを表しています。

ディスプレイ表示

取扱説明書に記載されている各種のパラメーターの数値など
は表示の一例ですので、本体のディスプレイの表示と必ずしも
一致しない場合があります。

目次

安全上のご注意	2
データについて	3
取扱説明書について	3
PS60 のおもな特長	4
演奏までの準備	4
AC アダプターを接続する	4
スピーカーやヘッドホンを接続する	5
電源を入れる	5
PS60 パネル概要	6
ティンバー（音色）を選ぶ	8
1つのティンバーを使用する（シングル）	8
複数の音色を重ねる（レイヤー）	9
鍵盤を分割して音色を割り当てる（スプリット）	10
コントローラーを使用する	12
鍵盤（キーボード）、キーボード・セッティング	12
ジョイスティック	12
ロータリー・スピーカー・シミュレーターのスロー / ファスト切り替え	13
ダンパー・ペダル、フット・スイッチ / ペダル	13
パフォーマンス・コントロールで サウンドを調整する	14
イージー・セットアップ	14
マスター・エフェクトとイコライザー（EQ）	15
パフォーマンスの保存	17
パフォーマンスの呼び出し	17
詳細なサウンド調整や設定をする（エディット） ...	18
エディットの基本操作	18
パフォーマンス・エディットでトーン・パラメーター を調整する	18
仕様（概略）	19
保証規定（必ずお読みください）	20
アフターサービス	20

PS60 のおもな特長

PS60は、ライブで威力を発揮するハイクオリティ・サウンドとイージー・オペレーションを兼ね備えた、軽量・コンパクトなパフォーマンス・シンセサイザーです。

ライブ、バンド演奏で威力を発揮するハイクオリティ・サウンド

- ・ コルグ・プロフェッショナル・シンセサイザーのサウンドを引き継ぐ **(EDS51)** (Enhanced Definition Synthesis-integrated) 音源によるハイクオリティなサウンドを実現しました。
- ・ アコースティック・ピアノ、エレピ、オルガン、ストリングス(弦楽器)、ブラス(管楽器)、シンセなどの音色を中心に、バンド全体のサウンドになじみながらも、際立つ440の音色を収録しています。(最大512プログラムまで保存可能です)

かんたんに音色選択やレイヤー/ スプリット設定が可能

- ・ アコースティック・ピアノ (A.PIANO)～シンセ (SYNTH) の6つのカテゴリーに分けられたそれぞれ専用のボタンを押すことによって、必要な音を簡単かつスピーディーに選ぶことができます。複数の音色が同時に鳴る「レイヤー」や、鍵盤の高域と低域で異なるサウンドを鳴らす「スプリット」も簡単に設定できます。

気に入った設定をすぐに呼び出せるパフォーマンス機能

- ・ フロント・パネル中央から右にかけて配置されたパフォーマンス・コントロール部のボタンやノブで、音色やエフェクトを調整します。そして左部分に配置されたパフォーマンス部に20セット(4バンク×5個)を保存することができます。保存した設定は、ライブなどの演奏時にスピーディーに呼び出すことができます。

表現力豊かな演奏が可能な鍵盤とコントローラー

- ・ セミ・ウェイトドの 61 鍵ナチュラル・タッチ鍵盤を採用し、ピアノ音色からシンセサイザー音色まで、自然なタッチで演奏できます。
- ・ 音色変化を生み出すジョイスティックとその効果を保持するボタンや、オルガンの音色でロータリー・スピーカー・シミュレーターの回転速度を切り替えるボタン、オクターブ変更や移調するボタンなど、演奏に欠かせないコントローラーを搭載しています。
- ・ ダンパー・ペダル、フット・スイッチ、フット・ペダルなどが接続できる端子を2つ搭載し、音量調節、エフェクト・モジュレーションのコントロールやパフォーマンスの切り替えなどを足元で行うことができます。

軽量コンパクト設計

- ・ 軽量でコンパクトな設計ですので、ライブやスタジオ練習などの移動時の持ち運びも簡単です。

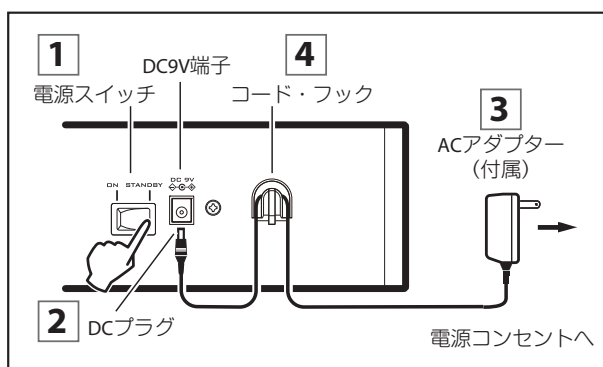
エディター、プラグイン・エディター

- ・ バンドル・ソフト「PS60 Editor」、「PS60 Plug-In Editor」を使うことで、さらに緻密なプロスペック・シンセサイザーと同等な音色エディットを行うことができます。

演奏までの準備

ACアダプターを接続する

- 1 PS60の電源スイッチがSTANDBYになっていることを確認してください。
- 2 付属ACアダプターのDCプラグを本機リア・パネルのDC9V端子に接続します。
- 3 ACアダプターは必ず付属のものをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障の原因となります。
- 4 ACアダプターのプラグをコンセントに接続します。
- 5 電源は必ずAC100Vを使用してください。
- 6 プラグが抜けないように、ACアダプターのコードを本機のコード・フックに固定します。



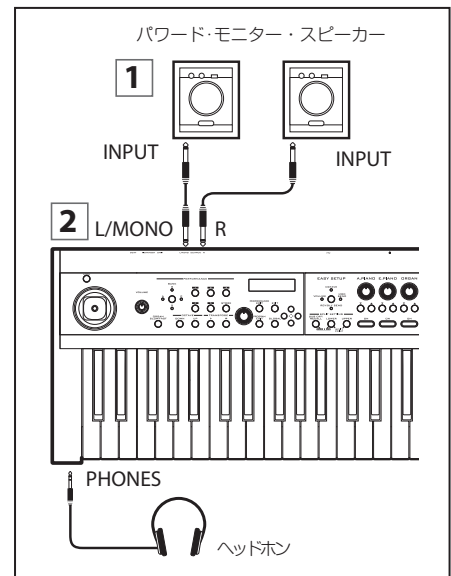
スピーカーやヘッドホンを接続する

PS60はスピーカーを内蔵していません。音を出して演奏をお楽しみいただくためには、パワード・モニター・スピーカーやステレオ・セットなどの音響機器、またはヘッドホンをご用意ください。

パワード・モニター・スピーカーやミキサーを接続するときは

⚠ PS60のオーディオ出力は、CDなどの一般的な家庭用音響機器よりも高い信号レベルに設定されています。そのため、過大な音量で演奏するとスピーカーや機器を破損することがあります。音量には十分ご注意ください。

- 1 接続するすべての機器の音量を絞ってから、電源を切ります。
- 2 PS60のOUTPUT L/MONO、R端子を パワード・モニター・スピーカーやミキサーなどのINPUT端子へ接続します。

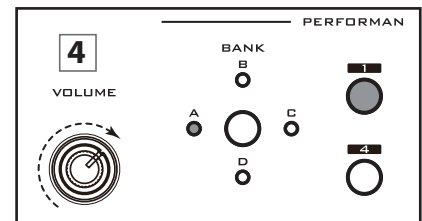
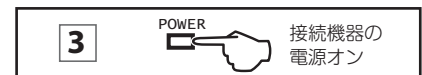
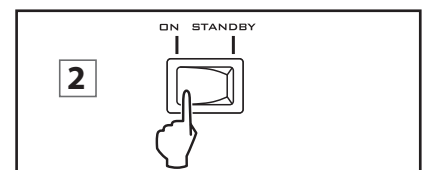
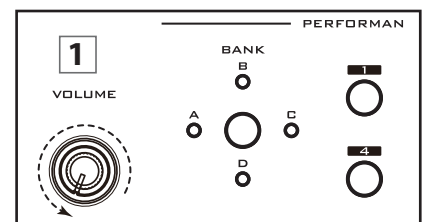


ヘッドホンを接続するときは

- ・ ヘッドホンのステレオ・ミニプラグをPS60のPHONES端子に接続します。
PS60のPHONES端子は、OUTPUT L/MONO、R端子の出力と同じ信号を出力します。
PHONES端子にヘッドホンが接続された状態でも、OUTPUT端子からの出力はオフになりません。

電源を入れる

- 1 PS60のVOLUMEノブを左に回しきり、音量を最小にします。
接続しているパワード・モニター・スピーカーなどの外部機器の音量が絞られ、電源が切られていることを確認してください。
- 2 PS60リア・パネルの電源スイッチをONにします。
ディスプレイに機種名、ソフトウェアのバージョンが表示されます。
- 3 PS60のOUTPUT L/MONO、R端子に接続したパワード・モニター・スピーカーなどの外部出力機器の電源を入れます。
- 4 PS60のVOLUMEノブおよび外部機器のボリュームを操作して、最適な音量に調整してください。



A-1: Stereo Piano
[A _ _ _ _]

PS60 パネル概要

サウンド・セッティング

パフォーマンス

パフォーマンス・コントロールで設定した音色やエフェクト、スプリット設定などを、そのままの状態で保存し、ワン・プッシュで呼び出すことができます。保存できるパフォーマンス数は、合計20個（4バンク×5個）です。

ボリューム調整

OUTPUT L/MONO、R端子とヘッドホン端子から出力する音量を調整します。

保存

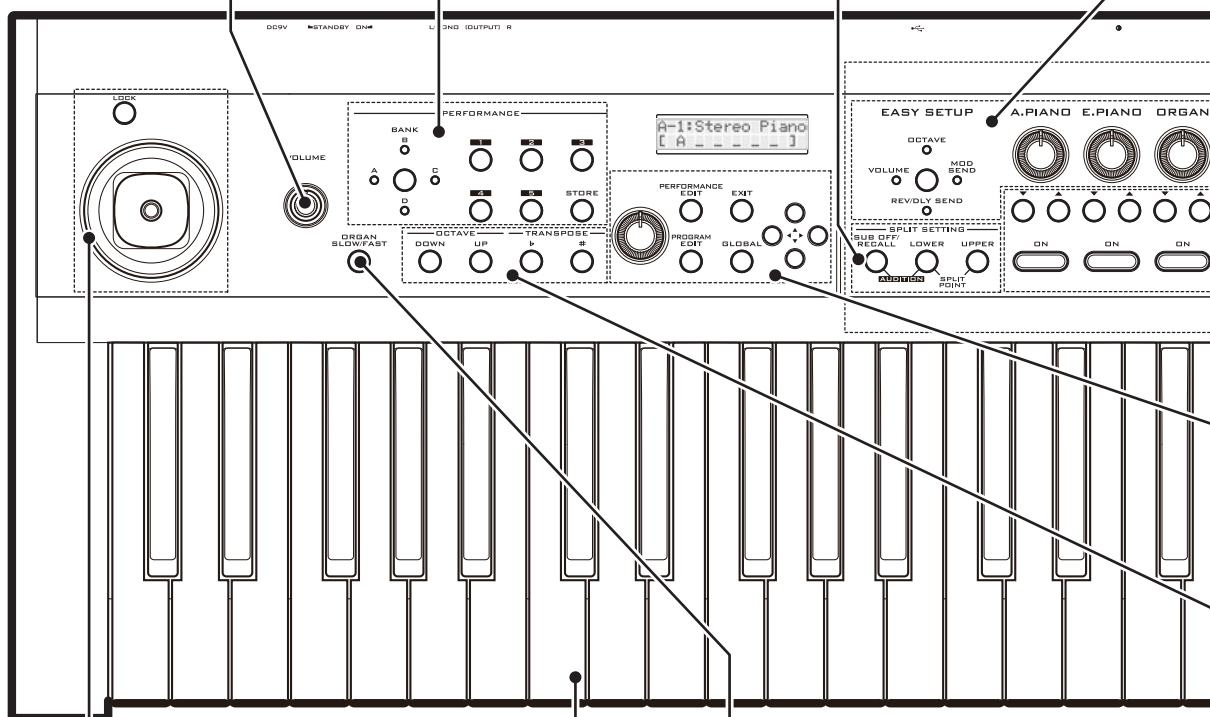
パフォーマンス・コントロール

イーजी・セッアップ (EASY SETUP)

ティンバーごとに、音量やオクターブ、エフェクトへの送り量を調整します。左側のEASY SETUPボタンで設定する機能を選び、右隣のノブでティンバーごとの調整をします。

スプリット・セッティング (SPLIT SETTING)

PS60本体の鍵盤を低域側と高域側に分けて演奏する「スプリット」を設定します。



演奏

コントローラー、キーボード

ジョイスティック、ロック機能

演奏中に上下左右に操作することで、サウンドをコントロールします。下（手前）、上（奥）方向に操作してモジュレーションやフィルターをかけたり、左右方向に操作してギターのようなチョーキングのようにピッチを変化させることができます。上下（±Y）方向などの効果をLOCKボタンで持続させることができます。

※工場出荷時。ロックできる範囲はGLOBALで選択できます。

ロータリー・スピーカー・シミュレーター (ORGAN SLOW/FAST)

ロータリー・スピーカー・シミュレーターのスロー、ファストが切り替わります。このボタンが点滅するORGANのプログラムを選択したときに使用できます。

鍵盤（キーボード）

61 鍵ナチュラル・タッチ鍵盤です。（ペロシティ対応、アフタータッチ非対応）

PS60は、サウンド・セッティング、演奏、設定の3セクションで操作します。

ティンバー・セクター

演奏するティンバーを選びます。

下段のティンバーONボタンで演奏するティンバーを選び、その上のバリエーション・ボタン▲▼でプログラムを切り替えます。

ティンバーONボタンは1つのボタンを押しながら他のボタンを押すと複数のティンバーが同時に鳴る「レイヤー」が設定できます。またSPLIT SETTINGのLOWERまたはUPPERボタンを押してティンバーを選ぶと、鍵盤の高域と低域で異なるティンバーを鳴らすスプリット・サウンドも設定できます。

モジュレーション (MODULATION)

サウンドに豊かな広がりや、揺らぎなどを与えるモジュレーション・エフェクトです。

ボタンでエフェクトを選び、各ノブで調整します。

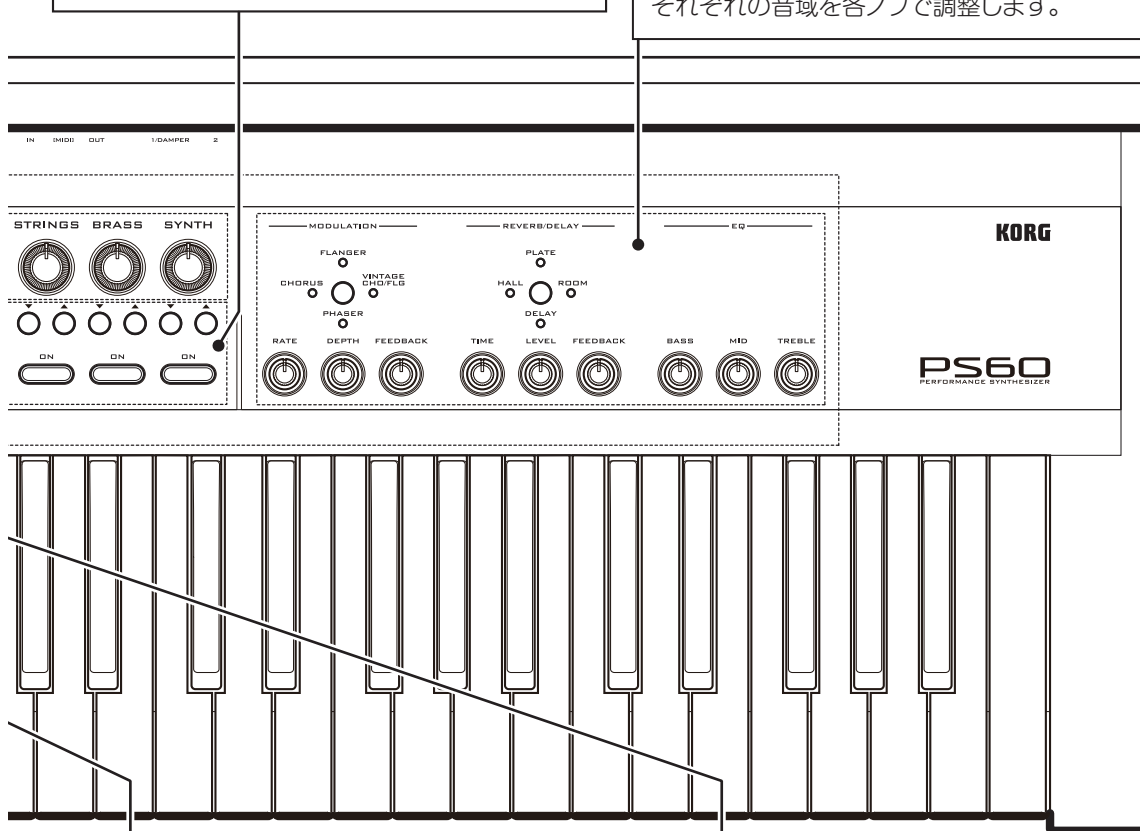
リバーブ (REVERB)/ディレイ (DELAY)

奥行きを広げる効果や、エコーや残響音を与えるリバーブ/ディレイ・エフェクトです。

ボタンでエフェクトを選び、各ノブで調整します。

イコライザー (EQ)

3バンド・パラメトリック・イコライザーで、低、中、高のそれぞれの音域を各ノブで調整します。



キーボード・セッティング

オクターブ・ダウン、アップ (OCTAVE DOWN, UP)

鍵盤の音程を1オクターブ単位で切り替えます。
-3～+3オクターブの範囲で変化させます。

トランスポーズ (TRANPOSE ♭, #)

鍵盤の音程を半音単位で-1～+1オクターブ
の範囲で変化させます。

メイン・オペレーション

パフォーマンスやプログラムのサウンドをより細かく調整したり、PS60の全体的な設定を行います。

各EDITボタン、GLOBALボタンを押して各モードに入ります。CURSOR/VALUE ▲▼◀▶ボタンでページの選択し、VALUEノブや▲▼ボタンでディスプレイに表示された値を変更します。エディット・モード以外ではパフォーマンスやプログラム・ナンバーを切り替えるときに使用します。

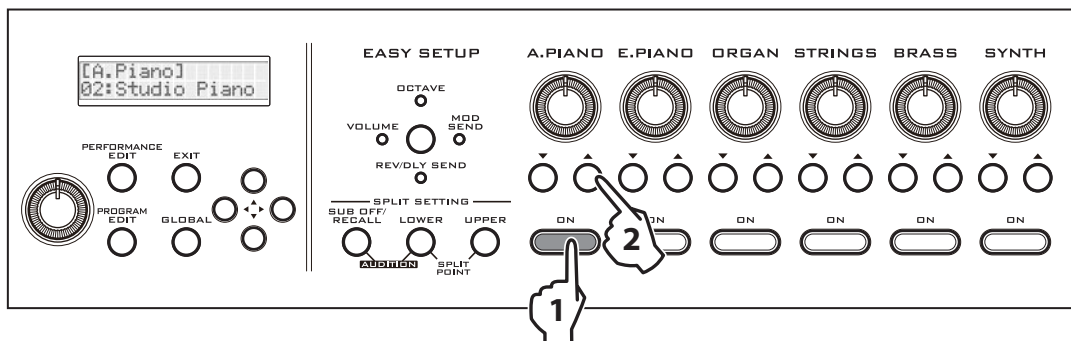
設定

ティンバー（音色）を選ぶ

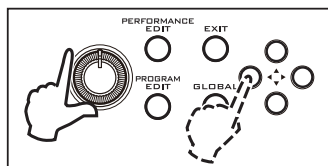
1つのティンバーを使用する(シングル)



- 1 演奏したいティンバー(A.PIANO～SYNTH)のONボタンを1つ押します。(ボタン点灯)
- 2 バリエーション・ボタン▲または▼を押して、プログラムを選びます。
エフェクトやイコライザーも、音色ごとに適した設定になります。



その他の選択方法



ディスプレイ下段にプログラム(・ネーム)が表示されているときは、VALUEノブでも選ぶことができます。その他、CURSOR/VALUE ▲または▼ボタンで1単位、◀または▶ボタンで10単位で切り換えることができます。

Note: ディスプレイ上段にパフォーマンス(・ネーム)が表示されているときは、VALUEノブまたはCURSOR/VALUE ▲または▼ボタンで、パフォーマンスが切り替わります。

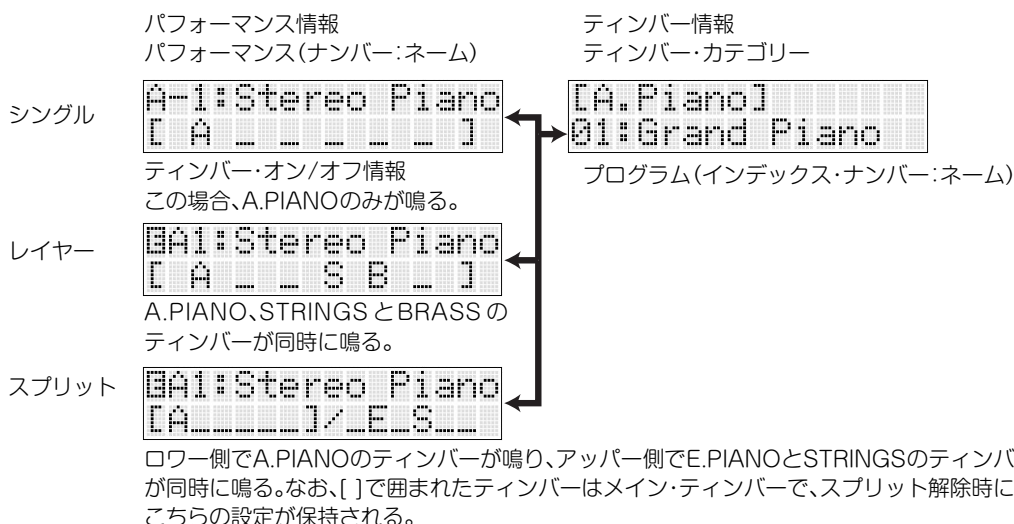
工場出荷時、各ティンバー・カテゴリーには右表の数のプログラムが収録されています。

Note: A.Pianoのプリロード・プログラム13:SoloStretch Grand～15:SoloStretch Classicは、より自然なピアノの響きを得るために、他のプログラムとは異なるストレッチ・チューニングが用いられています。そのため、他のプログラムとレイヤー設定にして演奏する場合、高音域や低音域でピッチが異なり、音にうねりを生じる場合があります。

ティンバー・カテゴリー	省略文字	インデックス・ナンバー(バンク・ナンバー)*
A.Piano	A	01-29 (A000-A028)
E.Piano	E	01-73 (A029-A101)
Organ	O	01-52 (A102-B025)
Strings	S	01-59 (B026-B084)
Brass	B	01-60 (B085-C016)
Synth	Y	01-167 (C017-D055)

ディスプレイの表示について

ティンバーONボタン、バリエーション・ボタンを押すと、ディスプレイにはパフォーマンス情報、またはティンバー情報が表示されます。



Note: ティンバーやプログラムを切り替えたり、パフォーマンス・コントロールを操作すると、ディスプレイ上段左側に設定を変更したことを示すマークが表示されます。

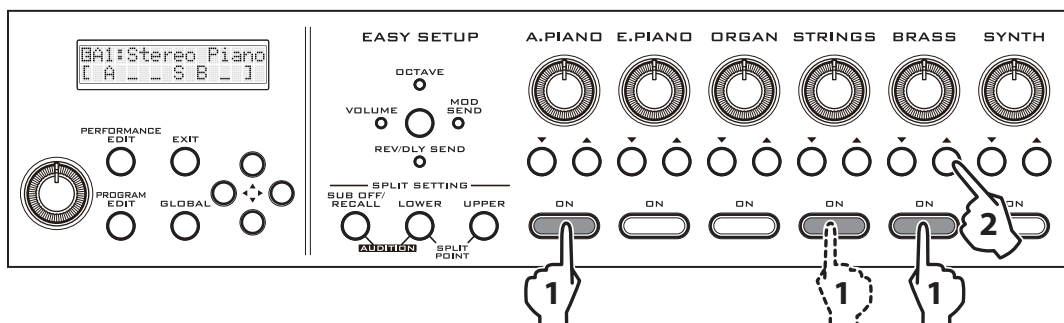
複数の音色を重ねる(レイヤー)

複数の音色を重ねて演奏することができます。このような設定を「レイヤー」と呼びます。



- 1 重ねたいティンバーのうち、1つのONボタンを押したまま、その他のONボタンを押してランプを点灯させます。すべてのONボタンから手を離すと、音色が呼び出されます。

マスター・エフェクトとEQは、最初にONにされたティンバーのプログラムの設定が使用されます。



例えば、A.PIANOを押しながら、STRINGS、BRASSを順番に押してから手を離します。ディスプレイ下段のティンバーオン/オフ情報に「A, S, B」が表示され、ティンバーがオンになったことを示します。鍵盤を弾くとこれら3つの音色が重なって鳴ります。シングルプログラムより豊かで厚みのあるサウンドで演奏することができます。マスター・エフェクトとEQは、A.PIANOのプログラムの設定が使用されます。

Tip: レイヤー設定時、EXITボタンを押しながらティンバーONボタンを押すと、ティンバーのオン/オフを切り替えることができます。

- 2 各ティンバーのバリエーション・ボタン▲または▼を押して、それぞれのプログラムを選びます。

マスター・エフェクトとEQは、手順1で最初にオンにしたティンバーのプログラムの設定が使用され、バリエーションを切り替えても変わりません。この設定はシングル設定に戻すまで継続されますが、フロント・パネル右側のボタンとツマミでマスター・エフェクトとEQを自由に調整することができます。(p.15参照)
プログラムごとに設定されているインサート・エフェクトはバリエーションを切り替えるごとに読み込まれます。

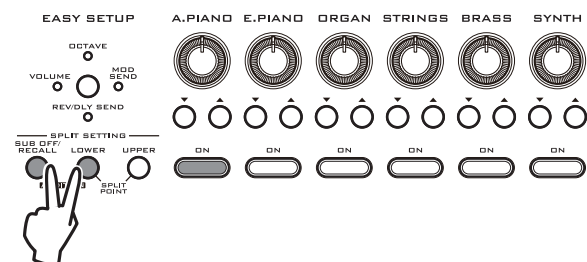
音色選択に便利な自動演奏機能(オーディション機能)

PS60のプログラムには、それぞれに適したリフ(フレーズ)が設定されています。このリフを自動演奏させることによって、サウンドの雰囲気確かめながらプログラムを選ぶことができます。

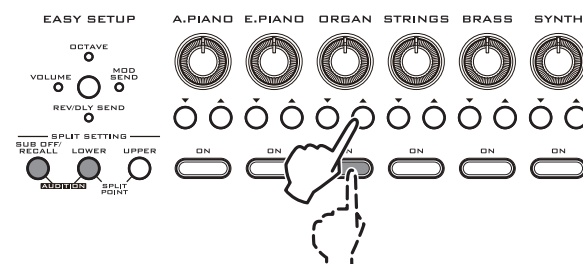
ティンバーがシングル設定になっていることを確認してください。オーディション機能は、レイヤー設定もスプリット設定もオフの状態でのみ使用できます。

- 1 SPLIT SETTINGのSUB OFF/RECALLボタンを押しながらLOWERボタンを押します。(両ボタンのランプ点灯)

プログラムに設定されているリフが鳴り出します。



- 2 ティンバーON ボタンを押してティンバーを切り替えたり、バリエーション・ボタン▲または▼を押して、プログラムを切り替えると、音色に合わせてリフも切り替わります。

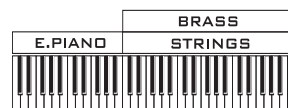


- 3 オーディション再生を解除します。次のいずれかの方法で解除します。

- SUB OFF/RECALL、LOWER、UPPERのいずれかのボタンを押す。
- レイヤー設定にする。
- レイヤーまたはスプリット設定のパフォーマンスを選ぶ。
- Globalモードに移動する。
- パフォーマンスまたはプログラムを保存する。

鍵盤を分割して音色を割り当てる(スプリット)

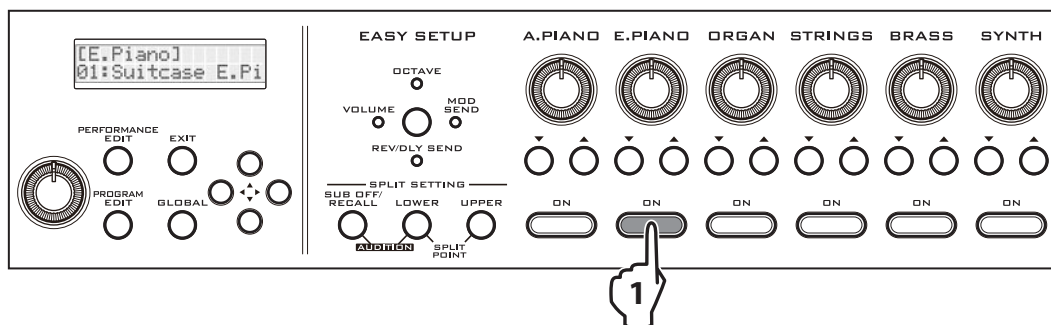
本体の鍵盤を2つの音域に分け、それぞれの音域に別々の音色を設定して演奏できる機能です。これを「スプリット」と呼びます。



2つの音域は、低音域側を「ロー（LOWER）」、高音域側を「アップ（UPPER）」と呼び、ローとアップが分かれるところを「スプリット・ポイント」と呼びます。スプリット・ポイントの鍵盤は、アップ側の最低音になります。

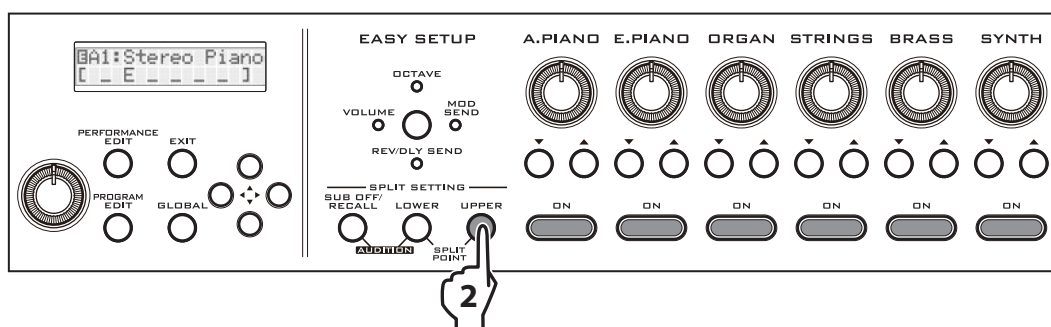
- 1 シングルまたはレイヤーの設定手順(☞p.8参照)に従って、一方の音域で使用する音色を選びます。
こちらがメイン・ティンバーとなり、ここで設定したマスター・エフェクトとEQ設定が使用されます。
スプリット設定にした後でも、音色、マスター・エフェクトやEQ設定を変更できます。

スプリットを解除したとき(SUB OFF/RECALL ボタンを押す)、このメイン・ティンバーだけが全鍵で演奏できます。(☞p.11参照)

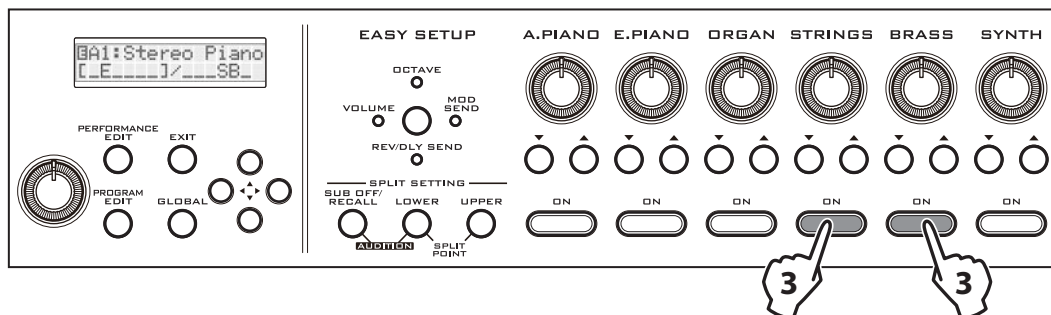


- 2 もう一方の音色をどちらの音域(ロー、アップ)に割り当てるかをLOWERまたはUPPERボタンを押して選びます。

押された音域のボタンとONボタンが点滅し、音色を選択するための待機状態になります。



- 3 シングルまたはレイヤーの設定の手順(☞p.8参照)に従ってもう一方の音色を選びます。
こちらがサブ・ティンバーです。

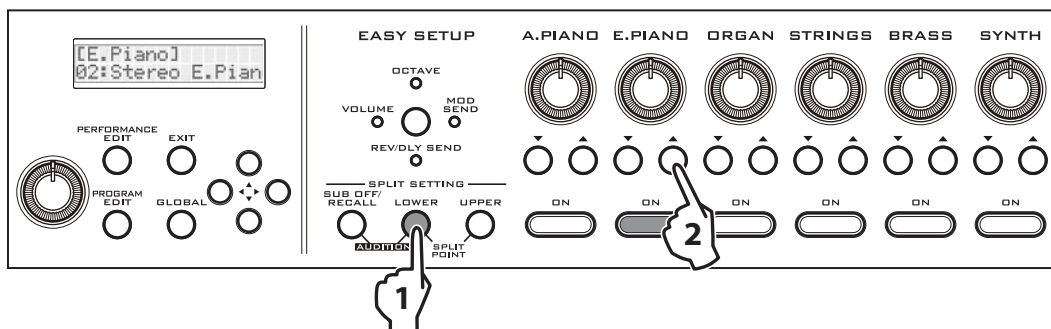


ディスプレイ下段には、それぞれの音域に配置されたティンバーが表示されます。メインのティンバーは[]で囲まれます。

Note: 手順を途中でキャンセルしたい場合は、EXIT ボタンを押します。

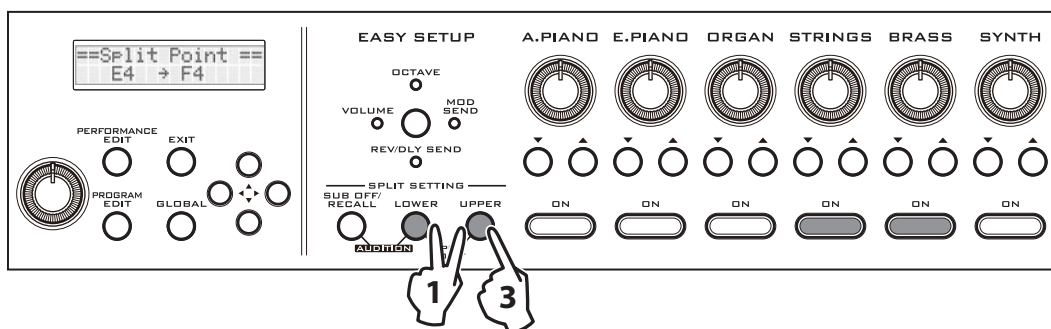
スプリット設定中に音色を変更する

- 1 LOWERまたはUPPERボタンを押して、音色を変更したい音域を選びます。
LOWERまたはUPPERボタンを押すと、選択した音域での各ティンバーのオン/オフ状態がONボタンの点灯で確認できます。
- 2 ティンバーONボタンや、バリエーション・ボタン▲または▼を押して、音色を切り替えます。

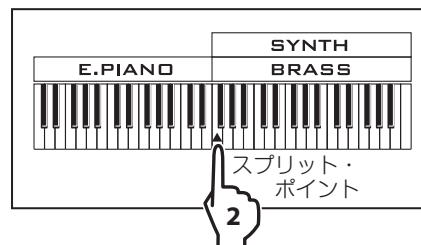


スプリット・ポイント(分割点)の設定

- 1 LOWERボタンを押しながらUPPERボタンを押します。
両方のランプが点滅し、ディスプレイにノート・ナンバーが表示されます。



- 2 スプリット・ポイント(分割点)にする鍵盤を押さえます。
スプリット・ポイントの鍵盤がアッパー側の最低音になります。
- 3 LOWER、UPPER または EXIT ボタンを押して、スプリット・ポイント設定を終了します。

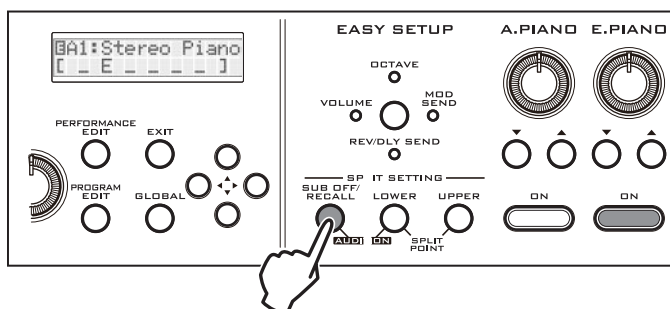


スプリットを解除する

- ・ スプリット設定の状態ですUB OFF/RECALLボタンを押すと、スプリットが解除されます。(LOWERボタン、UPPERボタンは消灯し、SUB OFF/RECALL ボタンが点灯します)
全音域が、スプリット時にメインのティンバーに設定されていた音色設定(シングルまたはレイヤー)で演奏できるようになります。

SUB OFF/RECALL ボタンのランプが点灯している間は、スプリット設定したティンバーやスプリット・ポイント等の各設定が記憶されています。点灯しているSUB OFF/RECALLボタンを押すと、スプリット設定に戻ります。

Tip: スプリット設定のパフォーマンスで演奏中に、一時的にスプリットを解除してメイン・ティンバーの音色だけで演奏するときに便利です。



コントローラーを使用する

PS60は、鍵盤をはじめ、ジョイスティックやボタン、別売のダンパー・ペダル、フット・スイッチ、またはフット・ペダルでサウンドなどをコントロールすることができます。

鍵盤(キーボード)、キーボード・セッティング

ベロシティ、キーボード・トラッキング、ポルタメント

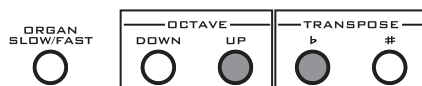
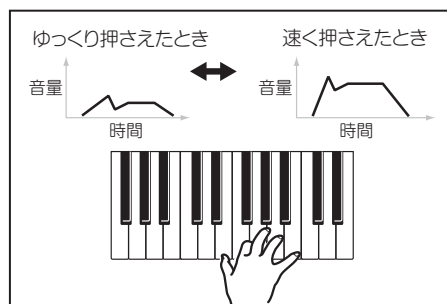
鍵盤を打鍵する速さ(ベロシティ)や、高低の音域の違い(キーボード・トラッキングによるコントロール)によって、サウンドを変化させることができます。

例えば、打鍵する速さ(または強さ)の違いによって、音量、音の明るさが変化します。また、鍵盤の高音部を演奏すると、音が明るくなったり、音がすぐに減衰するなどの変化が起こります。アコースティック・ピアノなどをイメージすると分かりやすいでしょう。PS60はこれらの設定を逆にしたり、組み合わせたりすることができますので、まったく異なる効果を得ることもできます。

また、モノフォニックのアナログ・シンセサイザーのサウンドでよく耳にするポルタメント機能(演奏している音から、次の異なる音程の音を弾いたときに、ピッチが滑らかに変化する機能)も鍵盤を使ったシンセサイザーならではの効果といえるでしょう。(☞OM p.28参照) *OM: PS60取扱説明書

この他、PS60は、演奏時にすぐにオクターブ単位で音程を変えたり、移調ができるように、フロント・パネルにオクターブとトランスポーズを切り替えるボタンを配置しています。

例:ベロシティによる音量の変化



オクターブ(OCTAVE)

鍵盤を押さえたときに、実際に演奏される音程を、1オクターブ単位で変えるボタンです。演奏する曲の音域が足りないときなどに使用します。

±3オクターブの範囲で設定できます。

Note: 本体鍵盤の設定が変更されます。パフォーマンスやティンバーのプログラムを切り替えても、この設定は変わらず維持されます。

トランスポーズ-移調- (TRANPOSE)

鍵盤を押さえたときに実際に演奏される音程を、半音単位で変えるボタンです。

±1オクターブ(12半音)の範囲で設定できます。

覚えた指使いを変えないで、ボーカリストや他の楽器のキーに合わせて移調することができます。

Note: 本体鍵盤の設定が変更されます。パフォーマンスやティンバーのプログラムを切り替えても、この設定は変わらず維持されます。

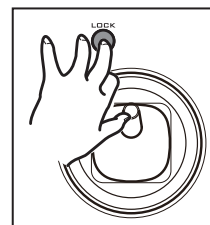
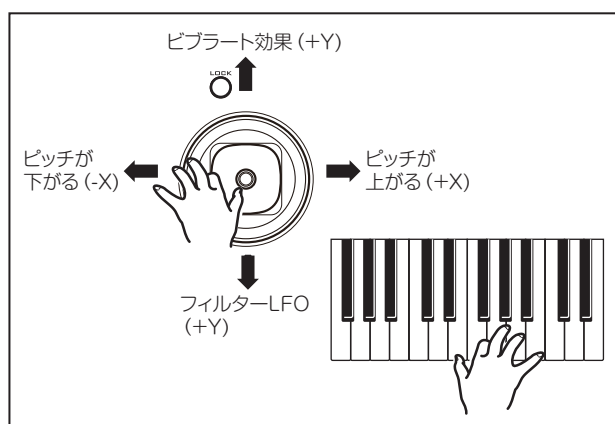
ジョイスティック

ジョイスティックは、上下左右に傾けることでサウンドを変化させます。多くのプリロード・プログラムでは、左右方向でピッチが変化し、上方向でビブラート、下方向でワウ効果がかかるように設定されていますが、この他にもプログラムごとに独自の効果がかかるものも多数あります。

ジョイスティック・ロック機能

ジョイスティックは、手を離すと自動的に中央位置に戻り、効果がかからなくなりますが、効果がかけた状態でLOCKボタンを押す(ランプ点灯)と、ジョイスティックから手を離れた後も効果が持続します。

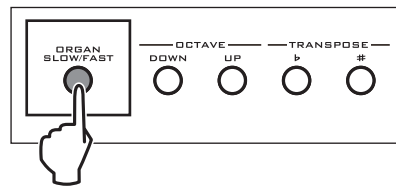
Note: X、Yのどの方向に対してロックが有効になるかをGlobalモードのControllers-JS Lockで設定することができます。(初期設定: ±Y) (☞OM p.46参照)



ロータリー・スピーカー・シミュレーターのスロー/ファスト切り替え

ORGANのティンバーでプログラムを選択していくと、ORGAN SLOW/FASTボタンが点滅するものがあります。この音色には、インサート・エフェクトにオルガンで定番のロータリー・スピーカーをシミュレートしたエフェクト(63:Rotary SP)が設定されています。

曲中の「ここぞ!」というところでORGAN SLOW/FASTボタンを押して、スロー/ファストを切り替えると効果的な演奏ができます。



ダンパー・ペダル、フット・スイッチ/ペダル

PS60に別売のダンパー・ペダル、フット・スイッチ、フット・ペダルを接続することによって、足元からPS60のサウンドや機能をコントロールすることができます。(OM p.9、46、47参照)

ダンパー・ペダル

ダンパー・ペダルを踏むと、打鍵した音が伸びて、鍵盤から手を離しても音が持続します。

PS60は、ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を連続的に変化させる「ハーフ・ダンパー機能」に対応しています。別売のコルグDS-1Hダンパー・ペダルを接続すると、この機能が使用できます。それ以外のスイッチ・タイプのペダルを接続したときは、オン、オフのみのダンパー・スイッチとして機能します。

工場出荷時のASSIGNABLE PEDAL/SW1/DAMPER端子は、ダンパー・ペダル用として設定されています。

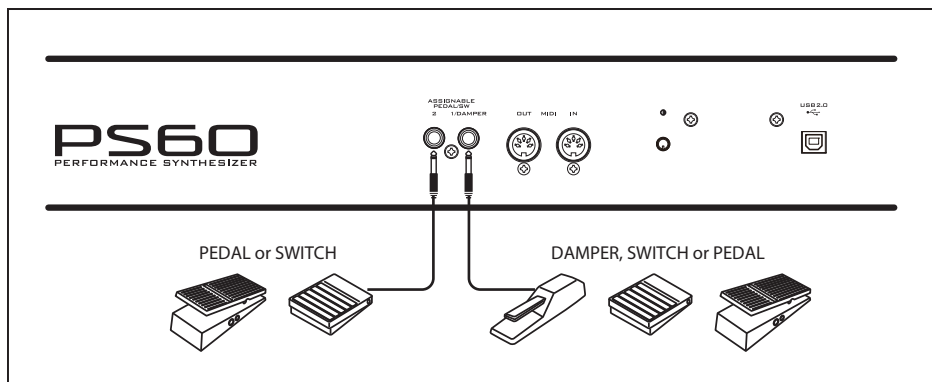
フット・スイッチ

フット・スイッチを使用すると、演奏中にサウンドやエフェクトのモジュレーションをコントロールしたり、ポルタメントのオン/オフや、パフォーマンスを切り替えることができます。

工場出荷時のASSIGNABLE PEDAL/SW2端子はフット・スイッチ用に設定されています。

フット・ペダル

フット・ペダルを使用すると、演奏中に音量やモジュレーション、ポルタメント・タイム、パン、エフェクトのセンド量等をコントロールすることができます。



パフォーマンス・コントロールでサウンドを調整する

PS60の「パフォーマンス・コントロール」は、前述した音色を選ぶセクション、スプリットを設定するセクションの他に、ティンバーごとに音量やオクターブ、エフェクトへの送り量を調整する「イージー・セットアップ」と、モジュレーション系とリバーブ/ディレイ系の「マスター・エフェクト」、音色全体の明るさや厚みなどを調整する「EQ(イコライザー)」で構成されています。

これらを調整して音作りを行い、その設定をパフォーマンスとして保存し、瞬時に呼び出すことができます。

イージー・セットアップ

各ティンバーのイージー・セットアップ・ノブを使って、ティンバーごとの音量やオクターブ、エフェクトへの送り量を調整します。

1 サウンドを調整するティンバーのプログラムを選びます。(☞「ティンバー(音色)を選ぶ」 p.8参照)

2 EASY SETUPボタンを押して、ノブで調整する機能を選びます。

EASY SETUPボタンを押すたびにランプが点灯し、次のように切り替わります。

VOLUME: ティンバーの音量を調整します。レイヤーやスプリット設定で音色同士の音量バランスを調整するのに便利です。

OCTAVE: ティンバーの音程を1オクターブ単位で切り替えます。±5オクターブの範囲で設定できます。このOCTAVEは、キーボード・セッティングのOCTAVE(☞p.12参照)とは異なり、設定するティンバーのみに影響します。

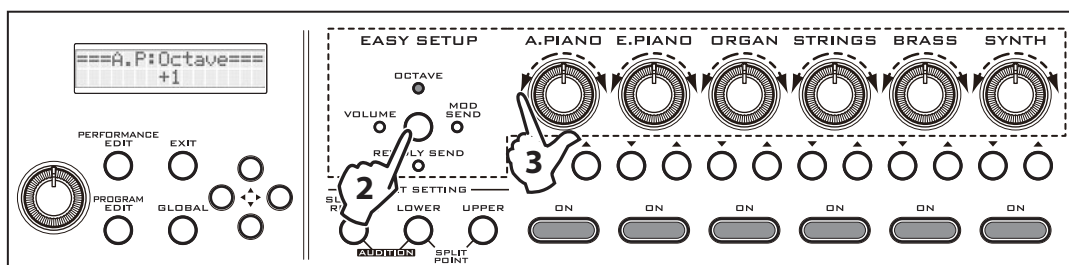
MOD SEND: モジュレーション・エフェクトへの送り量を調整します。エフェクトの種類や調整はMODULATION(☞p.15参照)で行います。

REV/DLY SEND: リバーブ/ディレイ・エフェクトへの送り量を調整します。エフェクトの種類や調整はREVERB/DELAY(☞p.15参照)で行います。

OFF: (ランプ全消灯)

3 各ティンバーのノブを回して調整します。

ノブを回すとディスプレイ上段にティンバーの省略名とイージー・セットアップ名、下段に値が表示されます。



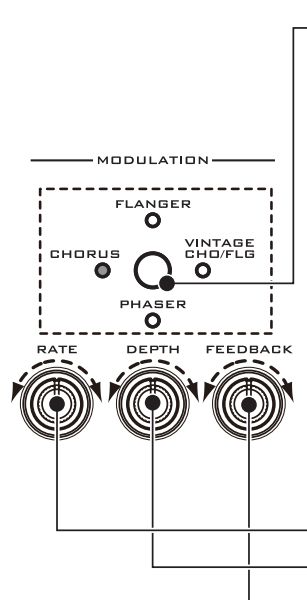
マスター・エフェクトとイコライザー(EQ)

音色にエフェクトをかけることにより、音に厚みや揺れ、残響感を与えます。イコライザーは、低、中、高のそれぞれの音域の音質を個別に調整し、サウンドを整えます。

マスター・エフェクトをかけるには、EASY SETUPで各ティンバーのMOD SENDとREV/DLY SENDで音声をエフェクトへ送る量を調整してください。(☞「イーजी・セットアップ」p.14参照)

モジュレーション系エフェクト(MODULATION)

音に厚みや暖かさ、うねりなどを与えるエフェクトです。



1 MODULATION ボタンを押して、エフェクト・タイプを選びます。押すたびにタイプが順番に切り替わります(ランプ点灯)。

CHORUS: 入力信号のディレイ・タイムをゆらすことによって、音に厚みや暖かさを与えるエフェクトです。

FLANGER: 激しいうねりと音程の移動感を与えるエフェクトです。倍音を多く含んだ音にかけると効果的です。

VINTAGE CHO/FLG: ビンテージ・アナログ・コーラスとアナログ・フランジャーのサウンドをモデルにしたエフェクトです。アナログ・エフェクト独特の暖かく、豊かなサウンドが得られます。

PHASER: 音の位相を動かすことによってうねりを作り出すエフェクトです。エレクトリック・ピアノなどにかけると効果的です。

EFFECT OFF(ランプ全消灯)

Note: エフェクトを切り替えると、各エフェクトの初期値が使用されます。

2 RATE、LEVEL、FEEDBACKの各ノブで調整します。

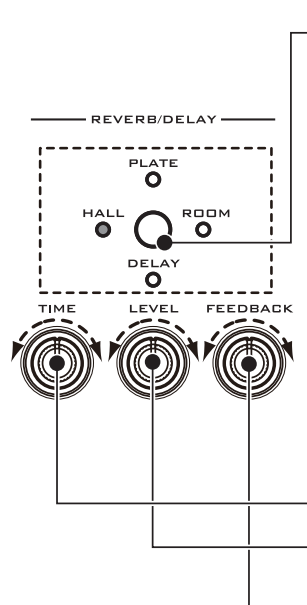
RATE: LFO変調のスピードを調整します。

DEPTH: LFO変調の深さを調整します。

FEEDBACK: フィードバック量を調整します。

リバーブ/ディレイ系エフェクト(REVERB/DELAY)

音に残響を与えたり、音を遅らせてこだまのような効果を与えるエフェクトです。



1 REVERB/DELAY ボタンを押して、エフェクト・タイプを選びます。押すたびにタイプが順番に切り替わります(ランプ点灯)。

HALL: 中くらいの大きさのコンサート・ホールやアンサンブル・ホールの残響音を得られるホール・タイプのリバーブです。

PLATE: 暖かみのある(密度の濃い)残響音を得られるプレート・リバーブです。

ROOM: タイトな感じが得られる初期反射音を強調したルーム・タイプのリバーブです。

DELAY: ディレイ・タイム最大549ms、シンプルで使いやすいモノラル・タイプのディレイです。

EFFECT OFF(ランプ全消灯)

Note: エフェクトを切り替えると、各エフェクトの初期値が使用されます。

2 TIME、LEVEL、FEEDBACKの各ノブで調整します。

リバーブとディレイで機能が異なります。下記の説明はリバーブ/ディレイの順です。

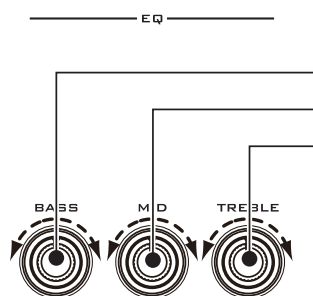
TIME: 残響時間を調整します。／ディレイ・タイムを調整します。

LEVEL: リバーブの出力レベルを調整します。／ディレイ音の出力レベルを調整します。

FEEDBACK: 高域の減衰量を調整します。／ディレイ音のフィードバック量を調整します。

イコライザー(EQ)

パフォーマンス全体のサウンドを調整できるパラメトリック・イコライザーです。低、中、高のそれぞれの音域を個別に調整できます。



- ・ BASS、MID、TREBLEの各ノブで調整します。

BASS: 低域のゲインを設定します。

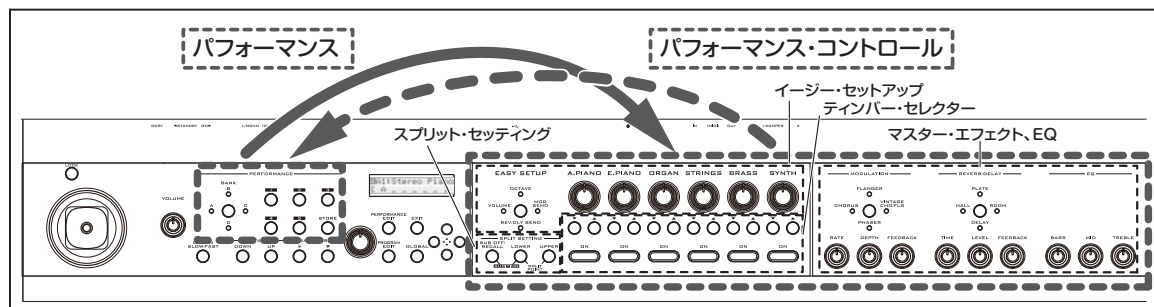
MID: 中域のゲインを設定します。

TREBLE: 高域のゲインを設定します。

Note: エディット・ページでは、ゲインに加えて各帯域の調整周波数(Freq)や帯域幅(Q値)を設定することができます。(☞OM p.31、40参照)

Tip: PS60のEQには、ライブ会場やスピーカーの音響特性に応じてオーディオ出力全体の特性を調整できる、EQオフセット機能があります。(☞「EQ Offset:」 OM p.44参照)

パフォーマンスの保存



パフォーマンス・コントロールで設定した音色やエフェクト、スプリット設定や、パフォーマンス・エディットの設定内容(※p.18参照)を、パフォーマンスに保存することができます。パフォーマンス数は合計20個(4バンク×5個)です。

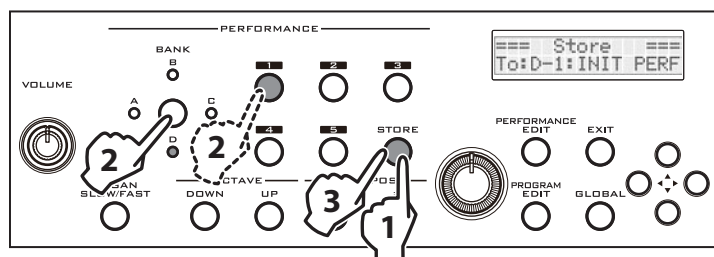
Note: JOYSTICK LOCKや、キーボード・セッティングのオクターブ、トランスポーズの各設定、およびSUB OFF/RECALLボタンが点灯している状態とその設定内容は、パフォーマンスに保存することはできません。

1 STOREボタンを押します。

ディスプレイ上段には「=== Store ===」、下段に保存先を表示します。

STOREボタンと、現在選択されているパフォーマンスのバンク、ナンバーのボタンのランプが点滅します。

2 保存先のバンクとナンバーを選びます。現在選ばれている(同じ)バンク、ナンバーに保存する場合はここでは何もせずに手順3に進んでください。



3 STOREボタンを押すと、本体メモリーに書き込みます。

ボタンが高速で点滅すると保存完了です。

⚠ 保存処理中に電源を切ると本体内のデータが壊れることがあります。処理中は絶対に電源を切らないでください。

Note: 手順を途中でキャンセルしたい場合は、EXITボタンを押します。

パフォーマンスの呼び出し

パフォーマンスを呼び出して演奏します。ライブ・パフォーマンス用の曲順に合わせた設定やお好みの音色を登録しておけば、ワンタッチで呼び出すことができ、とても便利です。

1 BANKボタンを押して、パフォーマンス・バンクを選びます。A～Dのバンクが順番に切り替わります。

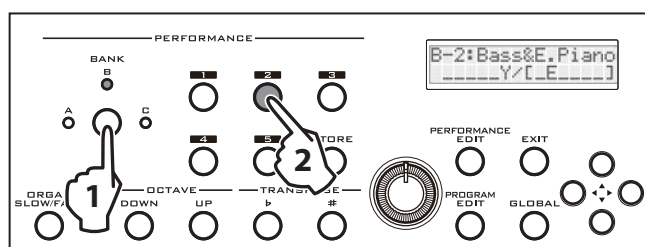
BANKボタン、ボタン1～5のランプが点滅します。

Note: キャンセルしたい場合は、EXITボタンを押します。

2 演奏するパフォーマンスが登録されたボタン(1～5)を押します。

ディスプレイ上段にパフォーマンス(ネーム)が表示されているときは、VALUE ノブまたはCURSOR/VALUE ▲または▼ボタンで、パフォーマンスを選ぶことができます。(※p.8参照)

なお、パフォーマンスでは、オフになっているティンバーで選択されているバリエーションの番号も一緒に記憶されています。ONボタンでティンバーのオン/オフを切り替えるだけで、すぐにその音色で演奏することができます。



詳細なサウンド調整や設定をする（エディット）

パフォーマンス・コントロール(※p.14参照)よりも、さらに詳細なサウンド調整をしたいときは、エディット機能を使用します。PS60には、以下の3種類のエディット・モードが用意されています。

PERFORMANCE EDIT: パフォーマンスのサウンドを調整します。

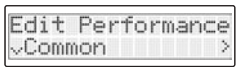
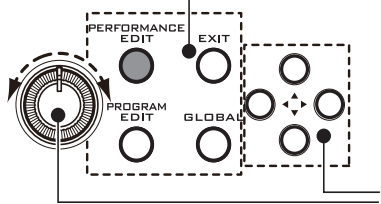
PROGRAM EDIT: ティンバーのプログラム自体のサウンドを調整します。インサート・エフェクトの選択や、オシレーター、フィルター、EG、LFOなどを調整することができます。

GLOBAL: PS60全体の音の高さや鍵盤タッチの感度(ベロシティ・カーブ)を変更したり、ペダルの機能などを設定します。

エディットの基本操作

各エディット・モードは、ディスプレイに表示されるエディット・ページで操作します。

目的のエディット・ページへの移動と、数値の変更は、次のように操作します。

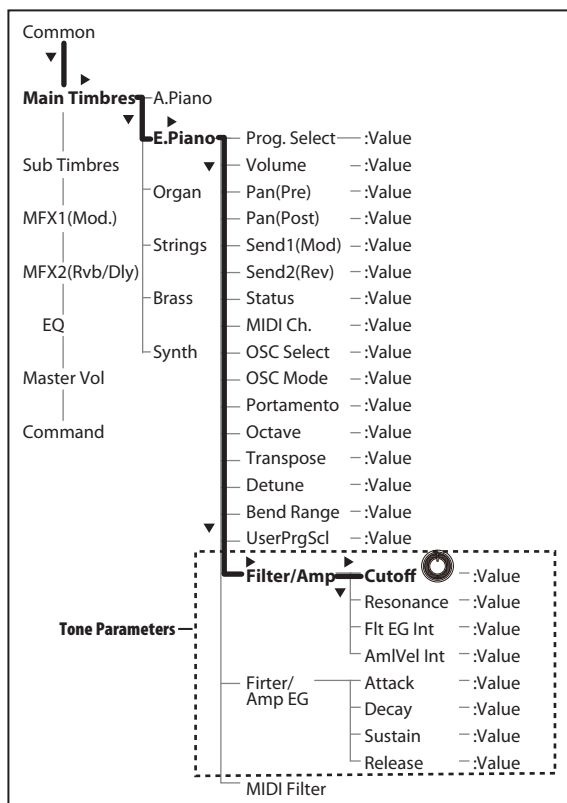
-  1 エディットするパフォーマンスまたはプログラムを選びます。
(GLOBALの場合は、この操作は必要ありません)
-  2 フロント・パネルのエディット・ボタンを押して、各エディット・モードに入ります。
Note: PROGRAM EDITを使用する場合に、スプリットまたはレイヤーに設定されているときは、複数のティンバーからエディットするプログラム1つを指定します。そのときの設定に応じて、LOWER、UPPERボタンや、点滅しているONボタンを押して、エディットするプログラムを選んでください。
- 3 ページやパラメーターの移動には、CURSOR/VALUE の ▲▼◀▶ ボタンを使用します。数値の変更は▲▼ボタン、またはVALUEノブを使用します。
- 4 **EXIT** ボタンを押すと、エディットを終了し、パフォーマンスのメイン・ページに戻ります。

パフォーマンス・エディットでトーン・パラメーターを調整する

パフォーマンス・エディットでE.PIANOのティンバーのトーン・パラメーターを調整して、サウンドを変化させる例を説明します。

トーン・パラメーターは、プログラムの複数のパラメーターを同時に調整します。複数のフィルターやアンプのパラメーターの設定値を元に同時に増減しますので、おおまかですが効果的な調整が行えます。変更した内容はパフォーマンスにだけ保存され、オリジナルのプログラム自体には影響しませんので、比較的、自由にエディットすることができます。

- 1 エディットするパフォーマンスを選びます。
E.PIANOのティンバーONボタンを押して、プログラムを選んでください。
- 2 **PERFORMANCE EDIT** ボタンを押して、パフォーマンス・エディット・ページに入ります。
ディスプレイ下段に“Common”が表示されます(表示されていない場合は▲ボタンを数回押します)。
- 3 右のツリー図を参考に、Filter/Ampの“Cutoff”を選びます。
▼(▲)ボタンを押して“Main Timbres”を表示します。
▶ボタンを押します。▼(▲)ボタンを押して“E.PIANO”を選択します。
▶ボタンを押します。▼(▲)ボタンを押して“Filter/Amp”を選択します。
▶ボタンを押します。(▼または▲ボタンを押して)“Cutoff”を選択します。
Note: PS60は電源を入れている間、最後に選択されたエディット・ページを記憶しています。直前の操作状況に応じて適宜 ▲▼ボタンを操作し、目的に合った項目を選択してください。



4 VALUE ノブを回して、値を調整します。カットオフ周波数の値と連動して、サウンドが変化します。

5 ▼ボタンを押して“Resonance”を選びます。
VALUE ノブを回すと、カットオフ周波数付近の周波数が強調されサウンドが変化します。

6 続いて、他のトーン・パラメーター(Tone Parameters)を選び、値を変更して、その効果を確認してください。

Note: サウンドの変化の仕方はプログラムごとに異なりますので、選んだプログラムによっては、あまり効果を確認できない場合もあります。

7 パフォーマンスを保存します。(p.17参照)

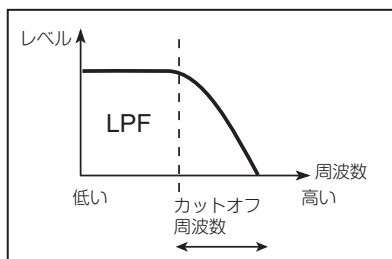
Note: ここで変更した設定は電源を切ると消えてしまいます。設定を残したいときは保存してください。

Filter/Amp:

ティンバーで使用しているプログラムのフィルターとアンプのパラメーターを調整します。

Cutoff (Filter Cutoff): サウンドの高域や低域など特定の周波数帯域をカットします。

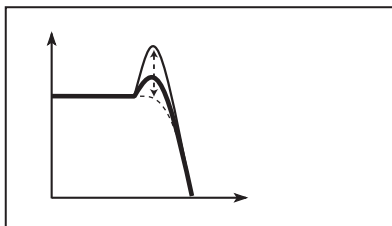
例えば、ローパス・フィルターが設定されている場合、音の明るさが変化します。通常値を小さくすると音が暗くなり、大きくすると明るくなります。



Resonance (Filter Resonance): 上記カットオフ周波数付近の周波数を強調します。

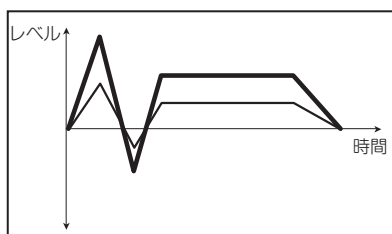
値を0に設定すると強調されず、カットオフ以降の周波数はなだらかに減衰します。

中程度の設定では、鼻にかかったようなサウンド、あるいはより過激なサウンドになります。非常に高い設定では、口笛のような共振音が得られます。



Filt EG Int (Filter EG Intensity): フィルターを時間的に変化させるエンベロープ(EG)のかかり具合を調整します。

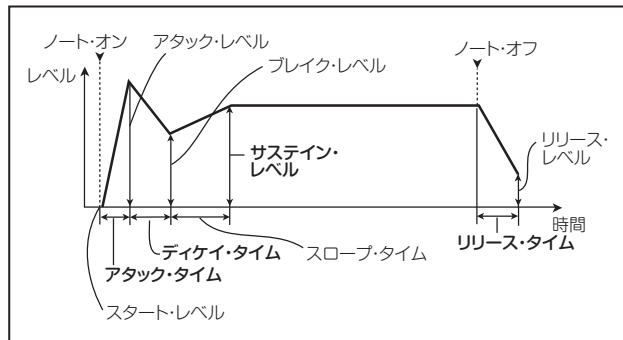
数値が小さい程、フィルターEGの効果が浅くなり、大きい程、深くなります。フィルターEGは、フィルターのカットオフ周波数を基準に動作しますので、Cutoff とこのFilt EG Intの両方の調整することによってフィルターによる音色変化をコントロールできます。



AmpVel Int (AmpVelocity Intensity): 音量をコントロールするアンプ・レベルが、ベロシティに応じて変化する度合いを調整します。

Filter/Amp EG:

ティンバーで使用しているプログラムのフィルターEGとアンプEGのパラメーターを同時に調整します。音の明るさと音量が時間の経過でどのように変化するかを設定します。



Attack (Filter/Amp EG Attack Time):

打鍵直後の音がすぐに大きくなるか徐々に大きくなるかを設定します。

Decay (Filter/Amp EG Decay Time):

アタック・タイム後のディケイ/スロープ・タイムを調整します。

Sustain (Filter/Amp EG Sustain Level):

スロープ・タイム後の鍵盤を押さえている間のレベル(サステイン・レベル)を調整します。

Release (Filter/Amp EG Release Time):

鍵盤を離した後、音が減衰する時間を設定します。

仕様 (概略)


使用温度条件:

0 ~ +40 °C (結露させないこと)

鍵盤部:

61 鍵 ナチュラル・タッチ鍵盤(ベロシティ対応、アフタータッチ非対応)

電源:

ACアダプター電源端子(DC 9V 1.7A )

外形寸法 (幅 x 奥行き x 高さ): 925 x 291 x 90 mm

質量: 4.6kg

消費電力: 6W

付属品:

ACアダプター、PS60イーजी・スタート・ガイド(本書)、アクセサリ・ディスク(ソフトウェア:PS60 Editor/Plug-In Editor、KORG USB-MIDIドライバー、PDF:PS60取扱説明書、PS60パラメーター・ガイド、PS60 USB-MIDIセットアップ・ガイド、など)

オプション:

XVP-10: エクスプレッション/ボリューム・ペダル

EXP-2: フット・コントローラー

DS-1H: ダンパー・ペダル

PS-1: ペダル・スイッチ

保証規定（必ずお読みください）

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類（ヘッドホンなど）は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より1年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
 - ・ 消耗部品（電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど）の交換。
 - ・ お取り扱い方法が不適当のために生じた故障。
 - ・ 天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
 - ・ 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
 - ・ 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
 - ・ 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
 - ・ 本保証書の提示がない場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より3ヶ月以内に限り無償修理いたします。

3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、サービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることがありますので、あらかじめサービス・センターへご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグPS60

保証書

本保証書は、上記の保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日 年 月 日
販売店名

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。

お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。

なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路など）のように機能維持のために必要な部品の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな？とお思いになったら、まず取扱説明書をよく読みのうえ、もう一度ご確認ください。

それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご質問、ご相談について

修理についてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。

商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

お客様相談窓口 TEL 03(5355)5056

● サービス・センター:

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12

TEL 03(5355)3537 FAX 03(5355)4470

KORG 株式会社コルグ

本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

<http://www.korg.co.jp/>